



2026 年6月 22 日

各 位

会 社 名	株 式 会 社 メ デ ィ ネ ッ ト
代表者名	代表取締役社長 久布白 兼 直 (コード番号:2370 東証グロース)
問合せ先	取締役経営管理部長 落合 雅三 (TEL 03-6631-1201)

脂肪由来間葉系間質細胞(ASC)の新たな機能評価手法に関する 研究成果を第23回日本免疫治療学会学術集会で発表 — サイトカイン刺激を用いた機能評価手法の検討 —

当社は、脂肪由来間葉系間質細胞(ASC: Adipose-derived Stromal Cells、以下「ASC」という。)の免疫調節機能に関する新たな評価手法について検討した研究成果を、第23回日本免疫治療学会学術集会上において発表いたしましたので、お知らせいたします。

■第23回日本免疫治療学会学術集会

会期: 2026 年 6 月 20 日

会場: 京都大学 芝蘭会館

演題: 「IFN- γ 単独刺激による脂肪由来間葉系間質細胞を用いた機能評価法の有用性検討」

間葉系間質細胞は、免疫調節機能や組織修復機能を有しており、再生医療および免疫関連疾患治療への応用が期待されています。中でも ASC は、原料細胞の採取に伴う侵襲性が比較的低いことから、各方面で臨床応用に向けた研究開発が進められています。

加工した ASC の機能評価法としては、T 細胞増殖抑制試験が広く用いられています。当社が開発した技術により加工した ASC についても、同試験を用いて T 細胞の活性を抑制する作用を有することを確認しています。一方で、T 細胞増殖抑制試験は、ヒト由来単核球の準備を要することや、試験結果の再現性の観点から課題があることが指摘されています。

これらの課題を踏まえ、当社では、従来の T 細胞増殖抑制試験に代替し得る簡便かつ再現性の高い評価手法の構築を目的として、サイトカイン刺激を用いた評価系の有用性について検討を行いました。その結果、本評価系において、当社で加工した ASC が、T 細胞の活性抑制に関与するサイトカイン等を産生していることが確認され、サイトカイン刺激を用いた評価系が ASC の機能評価手法の一つとなり得る可能性が示唆されました。当社は、本研究成果を第23回日本免疫治療学会学術集会上にて発表いたしました。

また、近時、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」に基づき提供される一部の特定細胞加工物について、適切な品質管理に課題がある事例も報告されています。当社は、本研究をはじめとする継続的な技術評価および品質評価の取り組みを通じて、今後も適切な管理体制のもと、高品質な特定細胞加工物の提供に努めてまいります。

以 上